

(社) 日本の戦争責任資料センター
第7回幹事会

1993年12月14日

親愛なる幹事会の皆様 私は、本日出席の予定でしたが、昨夜になり体調のことを考え、今回は欠席とさせていただきたく、中津さんと相談し、誠に申し訳ありませんがお許しを乞う次第となりました。

先週は火、水の東京行きに加え、金曜日にも口崩りで出掛け、電車の振動で骨の継ぎ目が緩んでしまったような感じがし、土曜日は一日伏せておりました。昨夜になってもその疲れが取れず、今回東京に行くことは可能でも、週末からの訪韓に差支え、合同研究会に集中する元気を失うと予想されました。

幸い、今回の幹事会には緊急を要する議題も見当たりませんので、レジュメをしっかりと、小姑的うるささで書くことによって、会議への参加を果たし、責めを塞ぎたいと考えました。まことに勝手な処置ではありますが、どうかお許しをお願いいたします。

—大阪より愛を込めて 上杉 梓

1. 「ファン・ボーベン報告書」について

用語の確定—とくに「賠償」と「補償」について。ドイツの用例にしたがって両者を入れ替えて使用してきた経過（2年前の戦後補償国際フォーラム以来）がある。「補償」の表現は、問題を金銭に限定する効果があり、ファン・ボーベン報告の趣旨を曲解する恐れ

総合政策局

2. 外務省・外政審議室との懇談会

政府側出席者 条約局・田中 アジア課首席事務官・藤井、地域政策課・宮川・伊東、外政審議室・錠塚

センター側 荒井、吉見、熊谷、新見、戸塚、田中、中津、上杉

判明したこと 「補償に代わる措置」を韓国に働きかけていることについて否定せず、個人にお金を手渡すことは絶対にしない態度を鮮明にした—しかし「措置」の内容については追求をはぐらかされた感じ
今後の対応 法律論で応酬があり、調査についてこちらの手の内を見せ（られ？）なかった。今後の政府の出方がどうなるか？法律論等で意見交換したいといってくれば脈あり。調査について知りたいといってくれば、脈なし？

30%
(12/10-アム
2/10)

1月
(12/10)
(12/10)
(12/10)
(12/10)

3. 研究部会の報告

「従軍慰安婦」問題

国会図書館調査

各学習会の進行状況

22-27
2223 27 (2/5-47)

412 - 27 2012 (12/10) 12/10 27-27
731 (11/2) 27-27
12/10

4、第2会日韓合同研究会（12月18～19）について

スケジュールの確認

内容の準備についてー各1・2・3主題についてそれぞれ

共同声明をどういう内容で出すかー大まかに考えてください

チャベス氏への報告書提出をこのあとどうするかー合宿が必要？

2/27

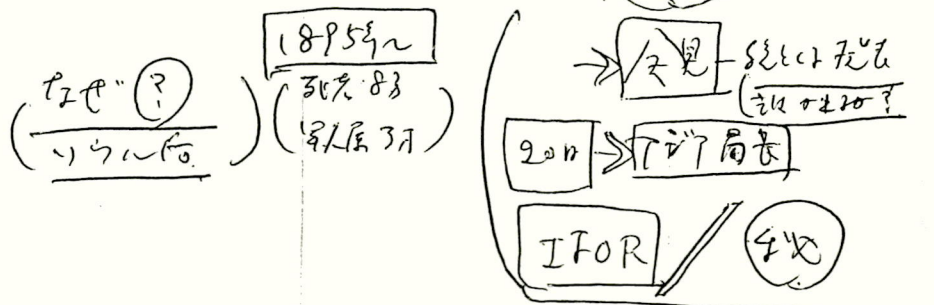
4/27

5、台湾外務省からの依頼の件

6、機関誌（紀要）について

第2号が完成

第3号の計画について



7、会員制および人事について

12/18 現在839人 今年中に1000人目標

安原さん(12/18、12/19)

12月-4000 - 12/18

12/18 12/19 12/20

8、「センター・ニュース」の完成

12/22

9、「慰安婦」問題での処罰要求の開始

12月8日、韓国挺身隊問題対策協議会が日本検察庁へ告発状の提出を計画したが日本側の準備不足で延期に。7～8日、尹貞玉共同代表、李美卿総務、朴元淳弁護士など来日、説明会を開催。日本側に、女性が中心になってこれを支持する動きが開始され、勉強会など始まっている。韓国では「早く慰労金をくれ」という運動が元慰安婦の息子、兄弟からその後起こされた。日本側記者が働き掛けた可能性あり。今後の予測...
 なお、これからは「告発状」、「ファン・ボーベン国連最終報告書」「世界に問われる日本の戦後処理②」「ナチス裁判」などが運動する人の必読書に。

軍法会議 (12/18、12/19)

B.C.R. 12/18

10、南京事件の被害者の賠償請求について（別紙・新聞記事参照）

生存者遺族・尚照富氏が10日に米口、細川首相へ賠償・追悼・教科書記載の三項目の要求書提出。帰国次第、台湾で運動の呼び掛け、また南京の被害者にも働き掛けを計画。台湾政府、中国政府も抑圧不可能の模様、台湾・中国側の体制が整えば訴訟の可能性

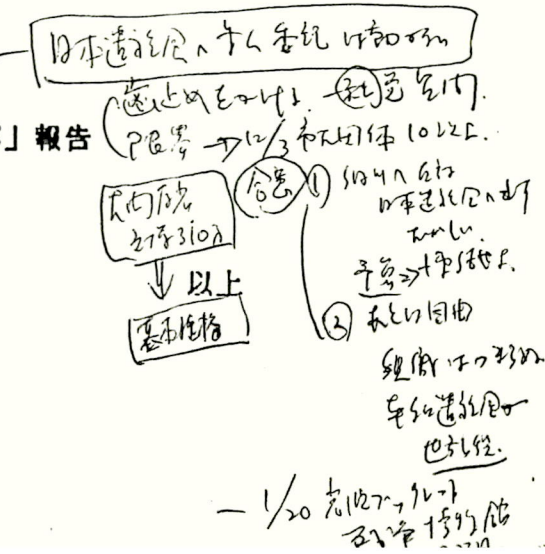
11、「戦没者追悼平和祈念館」（戦没者遺児記念館）について

12、社会党主催パネルディスカッション「戦後補償と我が国の対応」報告

13、次回幹事会

1月8日(土) 東京事務局にて

1/8



1/20